

## 長野県の主要河川における 特定外来生物オオカワヂシャ（ゴマノハグサ科）の分布

大塚孝一<sup>1</sup>・尾関雅章<sup>1</sup>

長野県下の奈良井川・犀川流域、天竜川、木曾川において、2008年7月から10月に、本流にかかるほぼすべての橋りょう付近で特定外来生物のオオカワヂシャの分布を調査した。その結果、奈良井川・犀川本流64ヶ所（橋りょう）のうち20ヶ所で、天竜川本流54ヶ所のうち2ヶ所でオオカワヂシャの自生が確認された。木曾川本流では確認されなかった。自生する開花株数は2株から数十株以上と様々であった。

キーワード：特定外来生物，オオカワヂシャ，分布，主要河川，長野県

### 1. はじめに

オオカワヂシャ *Veronica anagallis-aquatica* L. は、ゴマノハグサ科クワガタソウ属の越年草で、ヨーロッパからアジア北部原産の外来種である。水湿地に生え、茎は直立または斜上し高さ0.3-1m、無毛、葉は対生し長楕円形、鋸歯は小さく全縁に近く、無柄で茎を抱き、4～9月に、上部の葉の腋ごとに総状花序を伸ばし、多数の花をつける<sup>1)</sup>。長野県においては、近年千曲市で確認されたほか<sup>2)</sup>、千曲川本流域で広く確認されている<sup>3)</sup>。本種は繁殖力が強く他の水辺植物の生育場所を奪うほか、在来希少種のカワヂシャ *V. undulata* Wall. (長野県準絶滅危惧種<sup>4)</sup>) と自然状態で交雑し<sup>5)</sup>、遺伝的攪乱が懸念されていることから、2006年6月に施行された「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(外来生物法) に基づき特定外来生物に指定されている。

この種の分布状況を把握し今後の対策等に資するため、先に行った千曲川本流における分布調査<sup>3)</sup>と同様に、今回、奈良井川・犀川流域、天竜川、木曾川にかけて調査を行い全県下の主要河川における分布概要を把握したので報告する。

### 2. 調査地及び調査方法

調査は2008年7月から10月にかけて、塩尻市奈良井から長野市小市にかけての奈良井川・犀川本流（波田町より下流の梓川を含む）、岡谷市から天

龍村にかけての天竜川本流、木祖村藪原から南木曾町にかけての木曾川本流において行った。各々の川にかかるほぼすべての橋上から、左岸及び右岸の上下流約100mの範囲の水際を双眼鏡を使用して探索し、発見できた場合は河川敷きにおいて種類を確認し、橋の名称、場所（左岸、右岸、上流、下流）、株数を記録した。株数については、各々の株の境がはっきりしない場合はできるだけ株元を確認しながら、また、河川敷の自生場所に到達することができず直接数えられない場合は、双眼鏡で判別できるおよその数とした。調査ヶ所数は奈良井川・犀川本流64ヶ所、天竜川本流54ヶ所、木曾川本流27ヶ所で、調査に要した日数は12日であった。

### 3. 結果

調査結果を表1、図1に示す。奈良井川・犀川本流64ヶ所（橋りょう）のうち20ヶ所で、天竜川本流54ヶ所のうち2ヶ所でオオカワヂシャの自生が確認された。木曾川本流では確認されなかった。自生する開花株数は2株から数十株以上と様々であった。未開花個体1株の箇所があった。大きな広がりを持ち株数の多かった場所は、松本市両島（両島橋）、安曇野市田沢（田沢橋）、同市明科（犀川橋右岸の水路）などであった。天竜川では、自生が確認された場所及び株数は飯田市阿島橋右岸下流で開花2株、天龍村平岡の平岡大橋左岸上流で開花3株と少なかった。先の調査結果<sup>3)</sup>を含めた長野県全体の分布を図2に示す。これは佐久地方及び

1 長野県環境保全研究所 自然環境部 〒381-0075 長野市北郷 2054-120

表1 奈良井川・犀川本流におけるオオカワヂシャの調査場所及び分布確認状況  
調査年：2008年。－は発見できなかったこと等を示す。

流域	調査した橋の名称	所在地	確認した場所	開花株数	調査日	番号
犀川	小市橋	長野市小市	－	－	9月4日	
犀川	両郡橋	長野市新橋	左岸上流	16株	9月4日	1
犀川	小笹橋	長野市飯森	－	－	9月4日	
犀川	明治橋	長野市村山	左岸上流	－	9月4日	2
				(未開花10株)		
犀川	大安寺橋	長野市笹平	－	－	9月4日	
犀川	水篠橋	信州新町花倉	－	－	9月4日	
犀川	平三水橋	信州新町平	－	－	9月4日	
犀川	久米路橋	信州新町久米路	－	－	9月4日	
犀川	新町橋	信州新町新町	－	－	9月4日	
犀川	穂刈橋	信州新町里穂刈	右岸下流	6株	9月4日	3
犀川	大原橋	信州新町大原	右岸上下流	5株	9月4日	4
犀川	日名橋	信州新町日名	－	－	7月13日	
犀川	置原橋	信州新町置原	－	－	7月13日	
犀川	川口橋	信州新町川口	－	－	7月13日	
犀川	橋木橋	信州新町橋木	左岸上流	14株	7月13日	5
犀川	児玉橋	大岡村大田和	－	－	7月8日	
犀川	平ダム直下の橋	生坂村古坂	－	－	7月8日	
犀川	御曹司橋	生坂村鷲ノ平	－	－	7月8日	
犀川	山清路橋	生坂村鷲ノ平	－	－	7月8日	
犀川	新山清路橋	生坂村鷲ノ平	－	－	7月8日	
犀川	大日向橋	生坂村大日向	－	－	7月8日	
犀川	昭津橋	生坂村昭津	－	－	7月8日	
犀川	生坂橋	生坂村草尾	－	－	7月8日	
犀川	睦橋	生坂村下生野	－	－	7月8日	
犀川	木戸橋	安曇野市明科	右岸上流	数10株		6
犀川	犀川橋	安曇野市明科	右岸上流	5株	7月8日	7
犀川	犀川橋右岸横の水路	安曇野市明科	－	数10株		8
犀川	御宝田	安曇野市明科	－	数10株	7月8日	9
穂高川	常磐橋	安曇野市穂高	－	－	7月8日	
高瀬川	安曇橋	安曇野市下押野	左岸上下流	17株	7月8日	10
犀川	光橋	安曇野市豊科	左岸上流	数10株	7月8日	11
犀川	田沢橋	安曇野市豊科	右岸上下流	数10株以上	7月3日	12
梓川	梓橋	松本市高松	－	－	7月8日	
梓川	中央橋	松本市	－	－	7月8日	
梓川	倭橋	松本市倭	－	－	7月8日	
梓川	下島橋	波田町下島	－	－	7月8日	
梓川	梓川橋	波田町押出	－	－	7月8日	
梓川	可動橋	波田町赤松	－	－	7月8日	
奈良井川	島橋	松本市平瀬川西	右岸上下流	6株	7月3日	13
奈良井川	新橋	松本市新橋	左岸上流	15株	7月3日	14
奈良井川	松島橋	松本市松島	右岸上下流	数10株	7月3日	15
奈良井川	奈良井大橋	松本市荒井	－	－	7月3日	
奈良井川	奈良井橋	松本市荒井	左岸・右岸上流	数10株	7月3日	16
奈良井川	両島橋	松本市両島	右岸上下流	数10株以上	7月3日	17
奈良井川	月見橋	松本市笹部	右岸上下流	数10株	7月3日	18
奈良井川	島立橋	松本市南原	右岸下流	－	7月3日	19
				(未開花1株)		
奈良井川	下二子橋	松本市下二子	左岸下流	3株	7月3日	20
奈良井川	二子橋	松本市下二子	－	－	7月3日	
奈良井川	笹賀橋	松本市笹賀	－	－	7月3日	
奈良井川	上二子橋	松本市上二子	－	－	7月3日	
奈良井川	神戸橋	松本市神戸	－	－	7月3日	
奈良井川	小俣橋	松本市東耕地	－	－	7月3日	
奈良井川	今村橋	松本市上小俣	－	－	7月3日	
奈良井川	堅石橋	塩尻市堅石	－	－	7月3日	
奈良井川	郷原橋	塩尻市郷原	－	－	7月3日	
奈良井川	桔梗大橋	塩尻市洗馬	－	－	7月3日	
奈良井川	太田橋	塩尻市太田	－	－	7月3日	
奈良井川	琵琶橋	塩尻市下平	－	－	7月3日	
奈良井川	桃岡橋	塩尻市費川	－	－	9月27日	
奈良井川	福沢橋	塩尻市長瀬	－	－	9月27日	
奈良井川	旭橋	塩尻市平沢	－	－	9月27日	
奈良井川	漆橋	塩尻市平沢	－	－	9月27日	
奈良井川	木曾の大橋	塩尻市奈良井	－	－	9月27日	
奈良井川	権兵衛橋	塩尻市奈良井	－	－	9月27日	

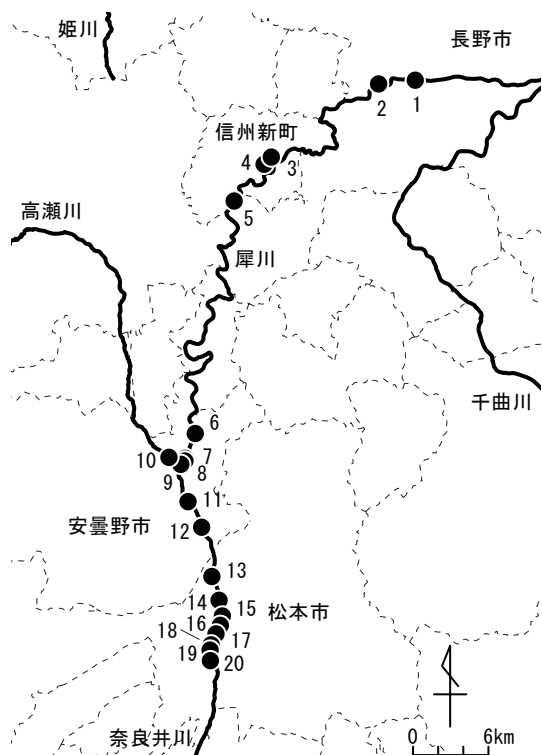


図1 奈良井川・犀川本流におけるオオカワヂシャの自生確認地点  
 図中の番号は表1の番号と対応する。

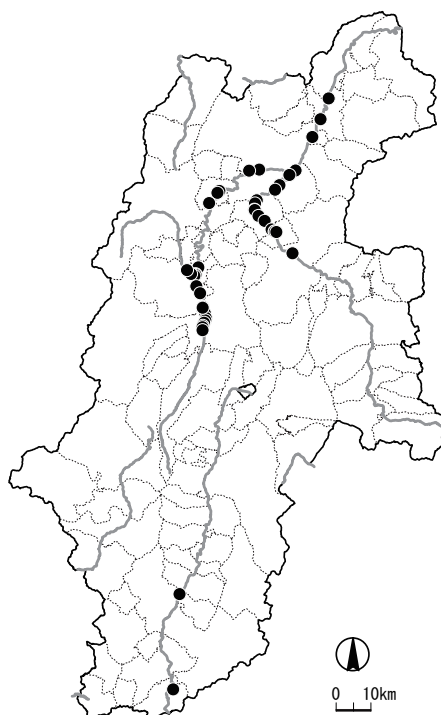


図2 長野県の主要河川におけるオオカワヂシャの自生確認地点

白馬・小谷地方を除く主要河川本流を調査した結果であり、全県を網羅できていないが概要を把握することができた。

#### 4. おわりに

オオカワヂシャは、1926年に神奈川県で採集されていることから、この頃日本に入ってきたと考えられている<sup>1)</sup>。かつて関東地方以西の水場で見いだされることが多かったが<sup>6)</sup>、最近では新潟県、千葉県、東京都などの都県でも確認されている<sup>7)</sup>。今回の調査で長野県においても広く分布していることがわかった。伝搬経路の詳細については不明であるが、今後さらに分布を広げる可能性がある。なお、今回の調査ヶ所には含まれないが安曇野市のワサビ田や湧水地が本種の群生地になる事例が確認されており、水温が安定し流れが緩やかな場所はオオカワヂシャの定着のみならず種子の供給源となる可能性もある。2008年6月には上田市において県主催の駆除研修会が開催されたが、今後も本種の動態に注意し、種子形成前の抜き取り等によりさらに分布拡大をさせない取り組みが重要である。

#### 文献

- 1) 山崎敬(2003)ゴマノハグサ科, 清水建美編「日本の帰化植物」pp.184-191. 平凡社, 東京.
- 2) 大塚孝一・尾関雅章・宮入盛男(2007) 特定外来生物オオカワヂシャ(ゴマノハグサ科)の千曲市における自生確認, 長野県植物研究会誌 40:151-153.
- 3) 大塚孝一・尾関雅章(2008) 千曲川本流における特定外来生物オオカワヂシャ(ゴマノハグサ科)の分布, 長野県環境保全研究所研究報告 4:93-95.
- 4) 長野県(2002) 長野県版レッドデータブック 維管束植物編, 297pp, 長野.
- 5) Tanaka T. (1995) *Veronica* × *myriantha* a new hybrid from the Kansai District, Japan. J.Jpn.Bot.70:260-267.
- 6) 清水炬宏・森田弘彦・廣田伸七(2001) 日本帰化植物写真図鑑, 554pp, 全国農村教育協会, 東京.
- 7) 金井弘夫・清水健美・近田文弘・濱崎恭美(2008) 都道府県別帰化植物分布図, 350pp.

Distribution of the invasive alien species *Veronica anagallis-aquatica* L.  
in the major streams of Nagano Prefecture

Koichi OTSUKA and Masaaki OZEKI

*Nagano Environmental Conservation Research Institute, Natural Environment Division,  
2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan*